



基本的教育と 識字率向上 プロジェクト戦略

目次

「基本的教育と識字率向上」とは？	1
プロジェクト計画の第一歩：地域社会調査	2
成人の識字教育	3
学校に通っていない子ども	5
教育効果を高める	7
教材の提供	9
参考資料&リソース	11
関連出版物	11
用語の説明	12

「基本的教育と識字率向上」とは？

世界には子どもたちが基本的な教育を受けられず、成人が十分に読み書きできない国や地域があります。そうした地域で基本的教育を提供し、識字率を上げれば、そのほかの諸問題の解決（貧困の削減、健康状態の改善、地域社会と経済の発展、平和構築など）の糸口をつかむことができます。「基本的教育と識字率向上」は、ロータリーの6つの重点分野の一つとなっています。

基本的教育・識字が重視される理由

- ② すべての女性が初等教育を修了すれば、妊婦の死亡率は66%減少する¹。
- ② 読み書きのできる母親を持つ子どもは、読み書きのできない母親の子と比べて、5歳以上まで生き延びる確率が50%高い²。

- ② 低所得国で全生徒が読み書きを習得した場合、1億7,100万人が貧困から抜け出すことができる。これは全世界の貧困の12%に相当する³。

世界的に、教育・識字の分野では進展が見られています。2014年国連ミレニアム開発目標の報告書によると、成人と青少年の識字率は上がっており、男女差も縮まっています。しかし、まだ多くの面で課題が残されています。

- ② 世界で5,800万人の子どもが学校に通っていない⁴
- ② 4年間の初等教育を受けた後も読み書きのできない子どもが2億5,000万人いる⁵
- ② 7億8,100万人の成人が読み書きできない⁶

世界各地のロータリークラブは、基本的教育の提供と識字率の向上をめざす活動に取り組んでいます。プロジェクトの実施地によってさまざまに事情が異なることを踏まえ、この手引きでは、事前に調査すべき点やリソースを最大限に活用する方法をご紹介します。

地域社会のニーズを調べる

プロジェクトを始める前に、まず地域社会の「ニーズ」（何が必要か）と「リソース」（何を地元で調達できるか）を確認することが大切です。これを調べるために、地元の人と協力して、徹底した地域調査を行いましょう。調査の段階から地元の人と協力すれば、適切なニーズが見つげられるだけでなく、地元の支持やサポートを得た上で、持続可能性の高いプロジェクトを実施できます。調査方法については、ロータリーの出版物「**地域調査の方法**」をご参照ください。

教育と識字に関する活動では、学校運営者、教員、親・保護者、生徒、文部省や教育委員会の代表者とも協力しましょう。

調査では、「はい」「いいえ」で答えられる質問ではなく、オープンエンド（自由回答式）の質問を投げかけます。物資の支援だけでなく、人びとの能力向上につなげるために次のような質問を試みましょう。

憶測でニーズを決めないことが大切です。特に自分の住む地域（またはその周辺地域）である場合、既に事情を知っていると考えて、独断でニーズを判断してしまいがちです。さまざまな関係者と話をし、現場の声に耳を傾けましょう。

教員に対して：

「どのようなスキルを伸ばしたいと考えていますか」
「あなたが目指す教育とはどのようなものですか。それを達成するには何が必要ですか」

保護者に対して：

「子どもが成人したらどんな職業についてほしいと思いますか」
「その仕事に就くために、どのようなスキルや教育が必要ですか」

生徒に対して：

「学校のどんなところが好きですか」
「どんな学校になったらいいと思いますか」

プロジェクトに参加したいと望む生徒もいるはずですし、何より、プロジェクトの影響を大きく受けるのは生徒たちです。生徒が何を望んでいるか（または望んでいないか）を把握することがプロジェクト成功の秘訣です。

ニーズに加え、リソースも確認しましょう。現地に十分なりソース（人材など）があれば、それをうまく活用することで、外部からの援助をほとんど必要とせず、地域社会の人たちが自力で課題を乗り越えられることもあります。リソースを調べる際は、関連分野で既に活動している団体があるかどうかを確認しましょう。そうすることで活動の重複を避け、ロータリーはほかのニーズに取り組むことができます。

地域社会のニーズに応える

基本的教育・識字のニーズがある場合、その多くは以下いずれかのカテゴリーに当てはまるはずです。

- 成人の識字教育が必要
- 子どもたちが学校に通えるよう支援が必要
- 教育効果を高める支援が必要
- 教材が必要

調査の結果、基本的教育と識字のニーズがないとわかったとしても、調査は決して無駄ではありません。むしろ、不必要な活動に時間やリソースを費やさずに済み、ほかのニーズが見つかることもあるでしょう。

続くページでは、各状況を詳しく分析し、それに対する持続可能な解決策と事例研究をご紹介します。

成人の識字教育

日本人にとって読み書きは呼吸と同じくらい自然な行為に思えても、世界には教育の機会に恵まれない人びとが大勢います。こうした人びとは、仕事を得るために履歴書を書いたり、子どもの通信簿を読んだり、処方薬の説明書を読んだりすることができません。

2000年以来、読み書きのできない成人の数は減少しつつあります。しかし、世界の非識字人口は7億8,100万人（世界の成人人口の15%）、その3分の2近くが女性となっています⁷。

？ 考えてみよう

- ① 現地の成人識字率はどのくらいか。
- ② 成人識字率の内訳を見ると、性別、民族、所得、その他の要因による格差があるか。その場合、最も識字率が低いのはどのような人びとか。
- ③ 読み書き習得の妨げとなる要因は何か。
- ④ 人びとは読み書きの習得で何が変わることを期待しているか（例：もっとよい仕事に就く、母語ではない公用語に慣れる、家計簿をつけて預金を増やす、子どもの宿題を手伝う、等）。
- ⑤ 成人学習者の場合、どのようなニーズ、関心、学習歴を持つ人びとか。（子どもではなく）成人にとって効果的な学習方法は何か（小中学校で標準的な教育方法も、成人には適さない場合がある）。

+ 戦略：母語とは異なる公用語を成人に教える

先住民や移民など、少数派言語を話す人びとは識字率が低い傾向にあります。こうした人びとは母語による読み書きができて、地元での公用語を生活や仕事に必要なレベルで使えません。

例えば、台湾の台中市では、複数のロータリークラブが力を合わせ、中国、ベトナム、インドネシア、タイからの移民女性に読み書きの授業を行っています。授業では、友人や隣人とコミュニケーションを取るための実用的なスキルを重視し、修了後にスピーチコンテストを行って、スキル実践の場を提供しています。

成人に第二言語を教える際の留意点：

- 日常生活を題材とする
- 参加型の学習を取り入れる（会話を通じて新しい言葉を学ぶなど）
- 授業での指示や説明には、学習者の母語を使う
- 実用的な知識も得られるようにする
- 学習者にとって都合のよい時間と場所を選ぶ
- 先住民や移民のための支援団体と協力する

+ 戦略：機能的リテラシーに焦点を当てる

社会生活に必要な機能的リテラシーを身につければ、ほかのスキルを学んで家族の生活の質を向上させることができ、子どもの教育にも熱心になります。成人学習者がこうした成果を理解していれば、勉強のモチベーションもさらに高まります。

事例研究：

「OPERATION UPGRADE」 と協力した南アフリカでの活動

南アフリカのクワズール・ナタール州では成人の識字率が低く、蔓延するHIV／エイズ感染が深刻な問題となっています。この地域のクラブは、成人向けの識字教育を支援する非政府組織（NGO）「Operation Upgrade」と協力し、識字プロジェクトを始めました。このプロジェクトでは、ズールー語と英語、基礎的な算数に加え、銀行口座の開設方法、手紙の書き方、家計の管理、小規模ビジネスの立ち上げといった実用的なスキルを教えています。さらに、HIV／エイズやその他の保健問題、栄養、食糧、地域開発についても取り上げています。



複数のロータリークラブがOperation Upgradeと協力し、成人に読み書きと社会で必要な実用スキルを教えています。授業では、ズールー語の文章を節、言葉、音韻に分け、学習者が既存の知識を使って文章構成を理解できるようにしています。

学校に通っていない子ども

1990年以来、学校に通っていない子どもの数は全世界で1億200万人から5,800万人に半減しました。しかし、近年はあまり進展がみられず⁸、2011年に小学校へ入学した1億3,700万人のうち、3,400万人（約25パーセント）は中退の可能性が高いといわれています。子どもたちが学校に通えない主な理由は、貧困、性差別、遠距離通学です⁹。

？ 考えてみよう

- ➡ まずは、通学できない理由を調べましょう。よくある理由と解決策は以下の通りです。

通学できない理由	解決策
教育費を払えない(授業料、制服、教科書、文房具など)	<ul style="list-style-type: none"> 所得を増やすために親や保護者への職業訓練を行う
子どもが家庭の労働力となっている／子どもが仕事をして収入を得る必要がある	<ul style="list-style-type: none"> 幼い子を預けるための保育園を作る 授業時間を柔軟に設定する
文化的に教育が重視されていない／教育に対して親の理解が足りない	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育のメリットを説明する 学校説明会を開く 宗教リーダーや地域リーダーに教育の重要性を強調してもらう(特に女子の教育) PTA組織をつくる
健康問題により通学できない／病気の家族を世話するため通学できない	<ul style="list-style-type: none"> 学校での水・衛生プロジェクトを併せて実施する HIV／エイズやその他の予防可能な疾病について認識向上を図る

⊕ 戦略：女子生徒が学校に通えるようにする

世界的には教育の男女差が縮まっていますが、中東、南・西アジア、サハラ以南アフリカといった地域ではまだ格差が見られます。これらの地域で女子生徒が少ない主な理由は以下の通りです。

- 女性の社会的立場が弱い
- 経済的理由（交通費・授業料、収入を得るための仕事の手伝い、等）
- 男性教員が圧倒的に多く、これらの教員は性差別について研修を受けていない

- 長距離通学のため、安全上の問題がある（性暴力の標的となりやすい）

- 学校に十分な衛生施設（個別トイレなど）がない

教育を受けた女子は健康な生活を送り、将来に十分な収入をもたらす仕事に就くことができます。また、家族計画に基づいて家庭を築き、子どもにより良い医療と教育を提供できます。このように、女子への教育は地域社会全体の発展につながる一方で、女子が男子と同等の教育を受けなかった場合、年間10億ドル以上の経済損失があると推定されています。

事例研究:

グアテマラでの「WASH IN SCHOOLS」

学校でのWASH（Water／水、Sanitation／公衆衛生、Hygiene／衛生習慣）プロジェクトは、きれいな飲料水と安全な衛生施設の提供、衛生教育（手洗い推進など）を通じて子どもの疾病感染を予防し、元気に通学できるようにすることを目的としています。

グアテマラでは、ロータリークラブがグローバル補助金を利用して9つの公立小学校を支援しました。子どもたちが衛生的な環境で学べるよう、浄水パイプ、水洗式トイレ、洗面所を設置したほか、水質の向上を図っています。



グアテマラのRancho Alegre校にて、昼食時に生徒に液体石鹸を配る教師。ある研究によると、下痢、栄養失調、脱水症状の予防には、予防接種や医療よりも日常の手洗いが効果的だといわれています。

教育効果を高める

読む力はあらゆる学習の基礎となります。しかし、サハラ以南アフリカ諸国では5年間教育を受けても生徒の40パーセントが読み書きできません¹⁰。低所得国の子どもたちが基本的な読む力を身につければ、1億7,100万人が貧困から抜け出せると推定されています。これは世界の貧困の12パーセントに相当します。

？ 考えてみよう

- ④ どのような資格を持つ人が教員となっているか。1クラスの生徒数は何人か。
- ④ 学校には、学校運営者、教員、親・保護者、生徒から成る委員会があるか。
- ④ 生徒が放課後に参加できる課外活動があるか。
- ④ 生徒の学習成果が上がらない理由を調べるため、教員、生徒、親・保護者と話す。それぞれ個別に話して、学校が掲げる教育目標は何か、教員が身につけるべきスキルは何かを尋ねる。
- ④ 教員への研修を行う。国によって、教職に就くには特定の学位や資格が必要な一方、初等教育のみで教員となれる国・地域もある。質の高い教育が望ましいため、多くの場合、教員は研修に関心をもっている。どのような研修に関心があるか尋ねる。
- ④ 教員研修プログラムの経験がないクラブや地区は、協力してくれる専門団体を探す。または、地域で評判の高い学校の教員に講師となってもらおう。

+ 戦略：教員研修を行う

幼児教育

2000年から2011年にかけて、幼稚園に入学した子どもの数は世界で6,000万人増加しました¹¹。ある調査によると、先進国と発展途上国のいずれにおいても、幼児教育はその後の学習により影響をもたらすことがわかっています。

幼稚園への入学率が増える一方、質の高いカリキュラムを提供するためにまだ多くの課題が残されています。

- 政府は幼児教育にあまり投資していない。その結果、多くの発展途上国で、幼児教育のカリキュラムや指導要領が整っていない。
- 幼児教育では、文字の識別だけではなく、発音、数字、生活知識、問題解決といった大切な学習事項も教えている。
- 適切な幼児教育により、子どもたちは小学校への入学準備を整えることができる。
- 教員研修とカリキュラム開発は、教育・識字プロジェクトを持続可能なものとするために重要である。
- 教員研修の持続可能性と成果を高めるには、1回限りではなく、長期的な計画が必要。地元で研修の運営担当者を決めるとよい。

小中学校での教育

小中学生の学習成果が上がらない理由の一つに、教員（特に十分な資格を備えた教員）の数が足りないことが挙げられます。また、多すぎる生徒数、教員研修の欠如、暗記に頼った学習も、学友成果の妨げとなります。

国連の持続可能な開発目標では、2030年までに全世界の子どもが無料で公平かつ質の高い小中学校教育を修了できるようにすることをめざしています。すべての子どもに初等教育を提供するには、世界で160万人の教員が必要です（その3分の1はサハラ以南アフリカが必要）¹²。また現職の教員のスキルを伸ばすことも重要な課題です。

事例研究:

小学校教員に外国語としての英語を教える

複数の言語が話される国では、教室で母語の異なる各生徒に対応するのは困難です。

南アフリカ、カナダ、米国のロータリークラブが、グローバル補助金で職業研修チームを南アフリカに派遣し、教員研修とカリキュラム開発を支援しました。研修カリキュラムは最終的に南アフリカ文部省による認定を受け、現在は国内全土に導入されています。



南アフリカで教員研修を行う職業研修チームのメンバー。生徒の母語がさまざまに異なる南アフリカの学校では、全生徒が理解できる授業を行うことが課題となっています。

教材の提供

教材は学習促進に効果がありますが、多くの学校では教材が不足しています。エチオピアでの研究によると、教科書があった場合、子どもたちの朗読力が格段に向上することがわかっています（1分につき9.6単語増加）。教材だけでは質の高い教育は実現しませんが、学習効果を高めるには教材の使用が必要です¹³。

? 考えてみよう

- ➡ 地元の声に耳を傾ける。関係者と話をして必要とされている教材は何かを調べ、リストを作る。中古図書を寄贈する場合、対象年齢、言語、現地の文化にふさわしい内容であることを確認する。

- ➡ 提供する教材が、その学校の教育目標にどのように役立つかを考える。
- ➡ 教材の購入・配布に留まらず、その教材を活用した教育方法の研修も加える。
- ➡ 発展途上国では近年、基本的な教材に加えて、テクノロジーも導入されている。このため、現代的なテクノロジー機器や設備の提供も検討するとよい。ただし、その場合には教員や生徒への研修が必要となる。最も大切なのは、生徒と教員の直接の交わりを通じた学習となる。

基本的な教材・設備の例	現代的なテクノロジー機器・設備の例
黒板	電子ホワイトボード
パソコン	ノート型パソコン
教科書、図書、辞書	タブレット型パソコン
机	多目的に使えるオープンスペース

留意事項：設備や教材の購入だけに留まるプロジェクトには、グローバル補助金を使用できません。教育目標を達成するために物資の提供以外にどのような活動ができるかを、現地の関係者と協力して調べるのが大切です。

+ 戦略：プロジェクトを拡張させる

初めて辞書、机、教科書を手にした子どもたちの笑顔からは、大きな達成感が得られるものです。しかし、物資の提供だけでなく、そこから一歩先へ進むにはどうしたらよいのでしょうか？

プロジェクト拡張のアイデア

- 本を寄贈するだけでなく、家族全員を対象とした識字プロジェクトを実施する。家族で一緒に本を読む活動を取り入れ、家族全員の能力向上をめざす。
- 辞書を寄贈し、放課後に作文クラスを追加する。このクラスで辞書の使い方、文章の書き方を教え、年度末に作文コンテストを開く。
- 学校に机やベンチを提供した場合、学習意欲を促す環境づくり、スペースの使い方について教員を研修する。一日中座ったままでは大きな学習効果が得られない場合もある。教員が効果的な学習環境について知ることで、生徒の学習成果向上をめざす。
- 学校にパソコンを寄贈する場合、授業でパソコンの使い方を教える。

事例研究:

グアテマラの識字プロジェクト

1998年以来、グアテマラと北米の400以上のロータリークラブが協力団体「Cooperative for Education」と手を組み、子どもたちに教科書を提供しています。近年はプログラムを拡大し、教科書に関する教員研修、コンピューター研修、小中学校での効果的な教授法に関する研修も行っています。こうした研修を通じて、教員は新しい教授法を学び、子どもたちに読み書きとテクノロジーの使い方を教えることができます。コンピューター教育担当の教員は、メンテナンスの方法、カリキュラムの作成、最新の教授法について集中研修を受けます。



グアテマラ識字プロジェクトを通じて、ロータリー補助金による教科書を受領した生徒たち。生徒は教科書を5年間借りるレンタル料を払います。学校は集まったレンタル料で5年ごとに新しい教科書を購入します。(写真提供：Cooperative for Education)

参考資料&リソース

www.rotary.orgでさまざまな資料やリソースに関する情報をご覧ください。

ロータリー財団の専門家グループ

ロータリー補助金プロジェクトの計画と実施のために、ボランティアで専門知識やアドバイスを提供しているグループ。

奉仕プロジェクトの流れ (ライフサイクル)

プロジェクトの選び方、他団体との協力、プロジェクト実施、成果の測定に関するベストプラクティスを紹介。

ロータリアン行動グループ

(www.rotary.org/ja/actiongroups)

水と衛生など、各分野の専門知識を有するロータリー会員、家族、プログラム参加者・学友が集まるグループ。クラブや地区のプロジェクトに専門的なアドバイスを提供。

ロータリー地域社会共同隊 (RCC)

(www.rotary.org/ja/rcc)

よりよい地域社会づくりをめざしてロータリー会員以外の人が集まり、独自のプロジェクトを実施したり、ロータリークラブのプロジェクトを支援するグループ。

ロータリー補助金

(www.rotary.org/ja/grants)

人道的プロジェクト、奨学金、研修といった幅広い活動を実施するため、ロータリー財団からロータリークラブと地区に提供される資金。「地区補助金」は小規模で短期の活動に活用でき、「グローバル補助金」はロータリーの重点分野において持続可能かつ測定可能な成果をめざす大規模な国際プロジェクトに活用できる。

ロータリーのアイデア応援サイト

(ideas.rotary.org)

プロジェクトを紹介し、協力パートナーやボランティア、資金、物資を募ることのできるクラウドソーシングサイト。支援するプロジェクトを検索することも可能。

ロータリーショーケース

(www.rotary.org/ja/showcase)

完了したプロジェクトを掲載し、世界中の活動例を紹介し合うソーシャルネットワーキングサイト。

職業研修チーム (VTT)

地元や海外で、自らの専門分野について研修を行ったり、研修を受ける職業人グループ。

関連出版物

www.rotary.orgから以下の出版物をダウンロードできます。

ロータリーの重点分野ガイド

ロータリーの6つの重点分野を説明し、各分野のプロジェクト例を紹介。

地域調査の方法

ロータリークラブが地域調査を実施するための8つの方法を紹介。

持続可能なプロジェクトの立案：6つのステップ

持続可能なプロジェクトを計画するためのポイントを概説。

補助金管理の手引き

グローバル補助金プロジェクトの計画から完了まで、順を追って説明した手引き。

用語の説明

基本的教育 (Basic education)

中学校卒業までの基本的学習のため、公式または非公式な場で行われる教育活動。

地域社会の調査 (Community assessment)

プロジェクト実施地の現状（強み、弱み、資産、格差、ニーズなど）を調べる。この調査の結果を基に、地域社会が抱える課題やリソースを特定し、ニーズに取り組むための計画を立てる。

協力団体 (Cooperating organization)

専門知識、インフラ、アドボカシー（政府や関係機関への支援の呼びかけ）、研修、教育、その他の支援を提供する組織または教育機関。

幼児教育 (Early childhood development)

8歳までの子どもの教育。

機能的リテラシー (Functional literacy)

日常生活や仕事に必要な読み書きの能力。

識字 (Literacy)

口頭と非言語のコミュニケーションを理解し、文字・数字を適切に使用する能力。

非政府団体 (Nongovernmental organization / NGO)

政府とは独立して地域、国、国際レベルで組織され、営利のためではなく人道的奉仕や公共のために活動するグループ。

基礎的な数字の知識 (Numeracy)

簡単な数字の概念を理解し、使用する能力。基礎的な算数（足し算、引き算、掛け算、割り算）の理解も含む。

学校に通っていない子ども (Out-of-school children)

以下のいずれかに該当する就学年齢の子どもを指す。

- 通える学校が近くにない
- 学校はあるが、入学届を出していない
- 入学届を出しているが、通学していない
- 中退した

プロジェクトの拡張 (Scaling up)

プロジェクトの範囲、影響、持続可能性を広げること。

持続可能性 (Sustainability)

ロータリーからの支援なしに、独自にプロジェクトやプログラムを運営する能力。プロジェクトの長期的な成果を保つために重視される。

引用元

- 1 UNESCO Global Monitoring Report 2013/14
- 2 UNESCO Global Monitoring Report 2011
- 3 UNESCO Global Monitoring Report 2013/14
- 4 The Millennium Development Goals Report 2014
- 5 Education For All Global Monitoring Report 2012
- 6 The Millennium Development Goals Report 2014
- 7 The Millennium Development Goals Report 2014
- 8 The Millennium Development Goals Report 2014
- 9 UNESCO Institute for Statistics (2013)
- 10 UNESCO Global Monitoring Report 2010
- 11 UNESCO Global Monitoring Report 2013/14
- 12 UNESCO Global Monitoring Report 2013/14
- 13 All Children Reading: A Grand Challenge for Development



One Rotary Center
1560 Sherman Avenue
Evanston, IL 60201-3698 USA
www.rotary.org